

優秀賞 全日本中学校長会会長賞

水とくらし

栃木県 作新学院中等部

二年 徳森 美咲

「おはよう」

と洗面所の方から父の声がする。最近になって、コップ一杯の水だけで顔を洗うことに挑戦しているようだ。きつと私が書こうとしている作文の影響だと思われる。

数ヶ月前、環境問題に対して、学校全体で具体的にできることは何かないかとずっと考えていたところ、母が庭の花壇の花に水をあげている場面を見て思い付いた。雨の日に外にバケツを置いて雨水をため、それを花にあげれば水道の水を使わなくてもすむ。この考えはすでに東京ドームでは実行されているようで、二万八千平方メートルもの広さといわれているドームの屋根に降水量一ミリの雨が降ったとすると、十六トンの雨水をためることができそうだ。そして、これを客席の下にある貯水タンクに集め、トイレの洗浄水や災害時の消防用水として利用されているらしい。この活動は、東京ドームだけではなく、都市部を中心にだんだん増えていっているということだ。

朝起きて顔を洗い、歯を磨く。トイレに行く。お風呂に入り、また歯を磨く。洗濯もする。少し考えてみただけでも、一日にたくさんのお水を使っていることがわかる。しかし家庭での水の使用量は、国ごとに著しく異なるようである。途上国の中には一日一人当たり数リットルという国もある一方で、先進国では数百リットル、という差がある。日本の家庭の使用量も他の先進諸国と同様、最も高い部類に属する。一例として東京での家庭で使用量は一日一人当たり約二百四十リットルの水を消費しているらしい。それに対し、色々調べていくうちに最低限の生活に必要な水の量は一日二十〜三十リットルという数字も出ている。つまり、実際に使った量との差である二百リットル以上の水を節約するということは十分に可能なのではないかと思えた。

今年の四月から宇都宮市では、ゴミの分別が細かくなり以前までは可燃ゴミとして捨てていたプラスチックの物も再利用できるものとして、資源ゴミの仲間入りになった。実際に新しい分別をしてみると、今までゴミ袋満タンに入っていた可燃ゴミは、びっくりするほど少なくなり、自分たちが捨てるゴミのほとんどがプラスチックだということを実感した。効果を期待しながら、分別の説明書きを読んでいくにつれ、ある疑問が頭から離れなくなつた。例えばマヨネーズのボトルや納豆のパックもきれいに洗ってから出すというルールである。そうなれば、当然大量の水を使うことになり、プラスチックは再利用することができゴミも減量化することができるかも知れないが、その分他の資源を無駄に使うとしまふと思つたからだ。夏になり貯水量が減少すれば、水を大切に節水に協力しましょうと言ひ、ゴミ減量化を唱えるときにはきれいに洗って出してくださいと言ひ。目先のことをただ解消することだけの対症療法ではなく本当の意味での解決策が見つければいいなと切望する。もちろん、お役所の方々も少しでも良くなればと頑張つて下さっているに違いないし、それだけ難しい問題なのだから、ということも十分にわかつてはいるつもりだ。なぜなら、自分で何ができるかと考えるだけでも答えは簡単に出てこないからである。ただ、ほんの少しだけの工夫でも、みんなが一方向を向いて協力していくことができれば、きつと今より明るい未来も見えてくると思いたい。

ちなみに、父のコップ一杯の洗顔には落ちがある。冷たい水での洗顔は苦手ということ。で温かいお湯が出るまでお湯が出るまで水を流しっぱなしにしている。おいおい、それは意味がないじゃないかと思わずつつこみそうになつたが、最初の一步として見守ることにした。